

高知県埋蔵文化財センター年報

第24号

2014年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第24号

2014年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

高知県埋蔵文化財センターは大規模開発に対応すべく円滑な発掘調査事業の推進と共に高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行うべく指定管理者として取り組んでいます。

平成26年度の受託事業は、発掘調査が0件で整理作業が3件でした。国事業の高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査整理業務、県事業では図書館等複合施設建設に伴う発掘調査整理業務と史跡高知城跡大手門東北矢狭間塀石垣改修工事に伴う調査整理業務の整理作業や報告書作成を中心に実施しました。

次に指定管理事業では出前考古学教室、公開講座等事業、企画展等事業を三本柱とし、出前考古学教室では94校に出向き、親子考古学教室では四万十市、宿毛市、安芸市、四万十町、須崎市、室戸市に加えて今年度は本山町でも開催し、より多くの県民の方に参加して頂けるよう計画した結果、延べ1,203人の方々に参加頂きました。さらに、古代ものづくり体験教室の平日開催や開催回数の拡大など昨年度以上に充実した内容の公開講座を用意すると共に企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めました。

また、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共に高知県文化財団として県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知への参加など埋蔵文化財センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進する計画です。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年11月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所 長 松田 直則

例言

1. 本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 26 (2014) 年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの 2 の(1)~(8)」は担当が中心となって執筆し、吉成が取りまとめ編集した。それ以外は吉成が執筆、編集した。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団.....	1	(3) 休館日.....	6
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要.....	1	(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先.....	6
(1) 設立趣旨.....	1	III 年間事業の概要.....	7
(2) 目的等.....	1	1. 発掘調査事業.....	7
(3) 設立年月日.....	1	(1) 受託事業.....	8
(4) 名称変更年月日.....	1	(2) 発掘調査報告書.....	10
(5) 事務局所在地.....	1	2. 指定管理事業.....	11
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織.....	2	(1) 公開展示.....	11
(1) 財団組織.....	2	(2) 公開講座等.....	14
(2) 財団役員.....	2	(3) 情報公開等.....	17
II 埋蔵文化財センター.....	3	(4) 出前考古学教室.....	20
1. 埋蔵文化財センターの概要.....	3	(5) 研修事業.....	26
(1) 設立趣旨.....	3	(6) 講師等職員の派遣.....	28
(2) 事業内容.....	3	(7) 遺物の再整理事業等.....	28
(3) 設立年月日.....	3	(8) その他.....	28
(4) 埋蔵文化財センター所在地.....	3	IV 条例・規則等.....	29
2. 埋蔵文化財センターの組織.....	3	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例.....	29
(1) 埋蔵文化財センターの組織図.....	3	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則.....	33
3. 埋蔵文化財センターの施設.....	5	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定.....	34
4. 利用方法等について.....	6		
(1) センターの利用.....	6		
(2) 利用時間.....	6		

表目次

表 1 高知県文化財団評議員.....	2	表 7 入館者推移表と平成26年度の入館者.....	13
表 2 高知県文化財団役員.....	2	表 8 公開講座参加者数.....	15
表 3 平成26年度高知県埋蔵文化財センター職員 一覧.....	4	表 9 平成26年度公開講座1.....	16
表 4 発掘調査推移表.....	7	表10 平成26年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室) ...	17
表 5 平成26年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書 刊行分)一覧.....	8	表11 平成26年度発掘調査報告会(遺跡解説会).....	17
表 6 平成26年度埋蔵文化財センター刊行報告書 一覧.....	10	表12 平成26年度公開講座2(親子考古学教室).....	17
		表13 平成26年度Web公開した報告書等.....	18
		表14 平成26年度物品・遺物(県有物)貸出一覧.....	19
		表15 平成26年度施設見学者一覧.....	20

目次

表16 平成10～26年度出前考古学教室実績一覧.....	22	表20 平成26年度埋蔵文化財担当者研修参加者.....	26
表17 平成26年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)1.....	23	表21 平成26年度職員自主企画研修.....	26
表18 平成26年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2.....	24	表22 平成26年度職員専門研修.....	26
表19 平成26年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数).....	24	表23 平成26年度講師等派遣依頼一覧.....	27
		表24 平成26年度会議等参加者一覧.....	27

図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 6 平成26年度受託事業整理作業位置図.....	9
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800).....	5	図 7 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合.....	14
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800).....	6		

写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	11	写真 10 展示解説.....	21
写真 2 企画展1ポスター.....	12	写真 11 火起こし.....	21
写真 3 企画展2ポスター.....	12	写真 12 勾玉づくり.....	21
写真 4 特別展ポスター.....	12	写真 13 土器づくり.....	22
写真 5 特別展記念講演会.....	13	写真 14 職員専門研修.....	26
写真 6 移動展パンフレット.....	13	写真 15 共催事業ポスター.....	28
写真 7 文蔵くん・まいちゃん.....	14	写真 16 3D土器パズル.....	28
写真 8 親子考古学教室2014.....	16	写真 17 銅鏡づくり.....	28
写真 9 ホームページ.....	18		

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代すう勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館をする等、県民文化の振興のための施設整備がなされたところである。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに、高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって、本県の新しい時代の、総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団を名称変更し、移行したことにより設立

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事10名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

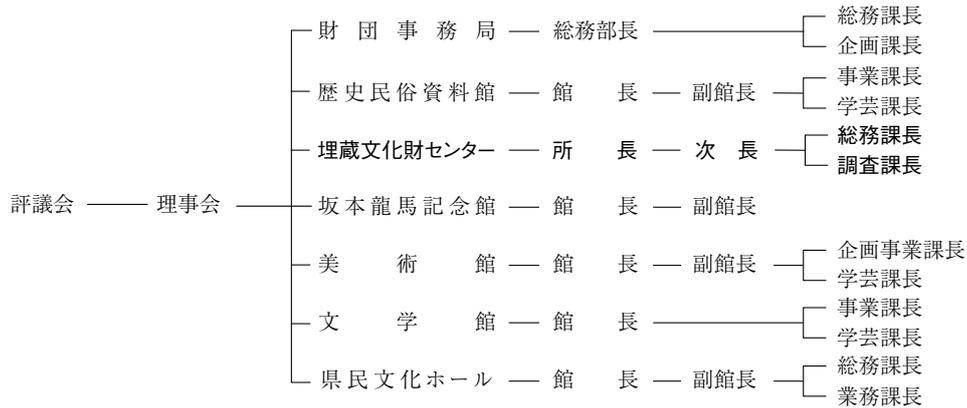


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	内川 雅彦	(株)高知新聞社学芸部長	平成24年4月1日就任
〃	岡林 豊	(株)高知銀行常務取締役	平成25年6月10日就任
〃	勝賀瀬 淳	高知県教育委員会事務局教育次長	平成25年4月12日就任
〃	田中 正澄	高知県町村会事務局長	平成24年4月1日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行代表取締役頭取	平成24年4月1日就任
〃	森田 恵介	高知県市長会事務局長	平成25年4月12日就任
〃	武政 龍司	高知県文化生活部副部長(総括)	平成26年6月11日就任

平成27年3月27日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	浜田 正博		平成26年6月11日就任
理事	岡崎 順子	高知県文化生活部長	平成26年6月11日就任
〃	青木 章泰	(株)四国銀行取締役会長	平成26年6月11日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成26年6月11日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成26年6月11日就任
〃	有岡 正幹	前高知県町村会長	平成26年6月11日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成26年6月11日就任
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭	平成26年6月11日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成26年6月11日就任
〃	南 裕子	高知県立大学学長	平成26年6月11日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成26年6月11日就任
監事	伊藤 瑞文	(株)四国銀行お客さまサポート部長	平成26年8月27日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成24年4月1日就任

平成27年3月27日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

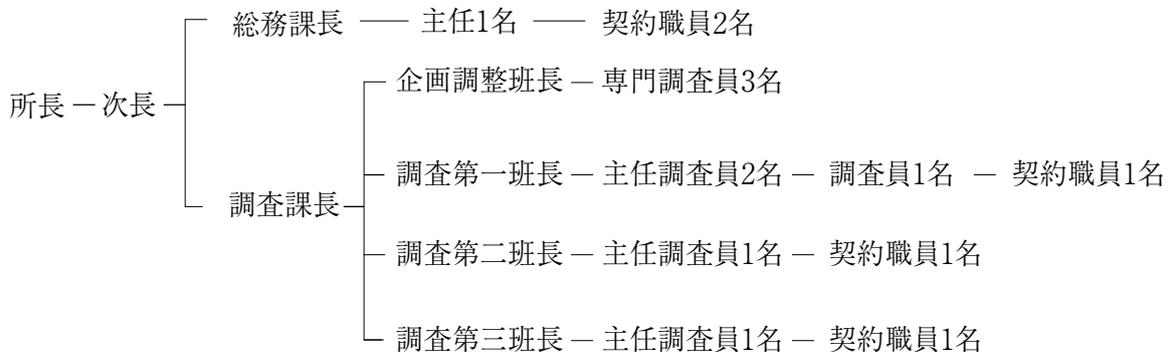


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成26年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		森田 尚宏	(公財)高知県文化財団	
次 長		松田 直則	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	野田 美智子	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	黒岩 千恵	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	濱田 晶	(公財)高知県文化財団	
	〃	公文 利佳	〃	
調査課	調査課長	松田 直則	県教育委員会文化財課主任(1種)	
	企画調整班	企画調整班長	坂本 憲昭	(公財)高知県文化財団
		専門調査員	茂松 清志	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤野 明弘	〃
		〃	坂本 裕一	〃
	調査第一班	調査第一班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	徳平 涼子	(公財)高知県文化財団
		〃	下村 裕	県教育委員会文化財課主幹
		調査員	矢野 雅子	(公財)高知県文化財団
		契約職員	奥宮 千恵子	〃
	調査第二班	調査第二班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	久家 隆芳	(公財)高知県文化財団
		契約職員	廣内 美登利	〃
	調査第三班	調査第三班長	吉成 承三	(公財)高知県文化財団
		主任調査員	筒井 三菜	〃
		契約職員	谷 幸絵	〃

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地： 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積： 4,203㎡

建物構造： 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫： 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積： 2,073.93㎡

(本館：615.58㎡ 北館：259.20㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡ プロパン庫：5.64㎡)

延床面積： 4,136.16㎡

(本館：1,038.68㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,527.52㎡ プロパン庫：5.64㎡)

事業費： 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

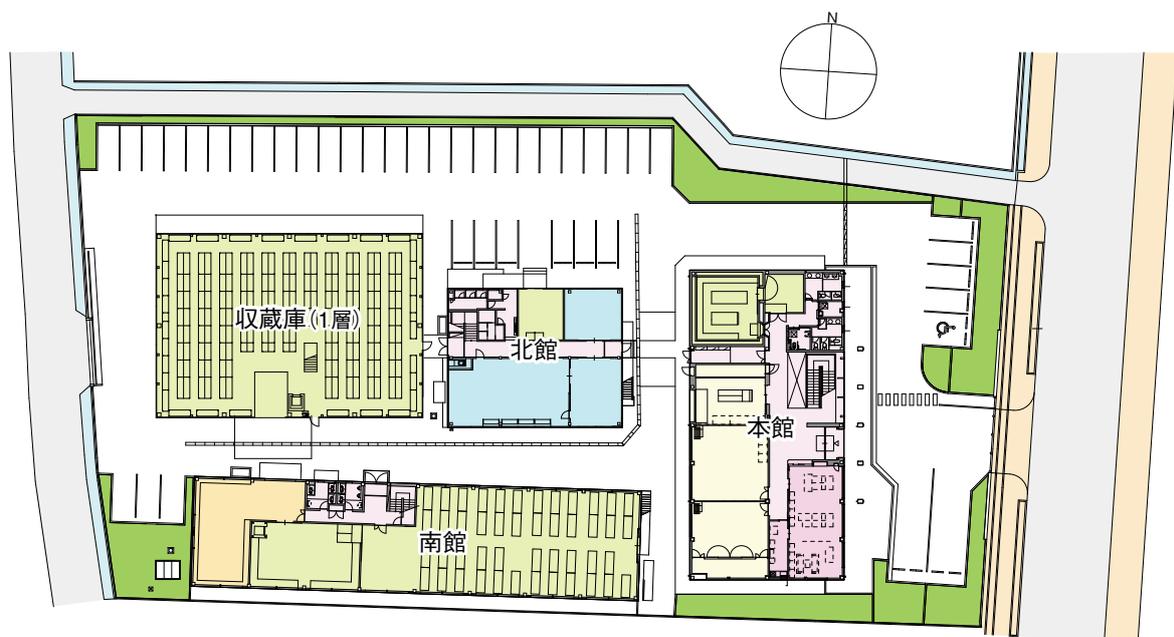


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

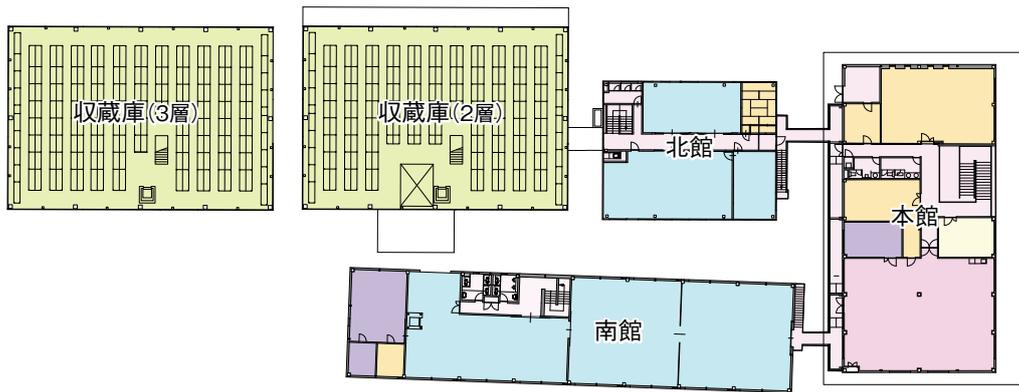


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧, 閲覧, 撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日, 祝祭日, 12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日, 祝祭日も開館, 企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所..... 〒783 - 0006 高知県南国市篠原1437 - 1

Tel..... 代表(088)864 - 0671 調査課(088)864 - 6266

Fax 代表(088)864 - 1423 調査課(088)864 - 6268

Email..... maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL..... <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB..... <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成26年度に受託した件数は3件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、高知南国・南国安芸道路、高知西バイパス、図書館等複合施設建設、史跡高知城跡追手門東北矢狭間堀石垣改修工事に伴う調査についての整理作業を行い、4冊の発掘調査報告書を刊行した。受託契約事業費は184,561,100円であった。発掘調査件数は0件で受託費は昨年度より58,669,358円少なく、対前年度比は24%の減少である。経費の内訳は、国関係が147,306,600円(80%)、県関係が37,254,500円(20%)で、国土交通省関係の事業である高知南国道路(1遺跡)、南国安芸道路(1遺跡)、高知西バイパス(3遺跡)の所管がいずれも土佐国道事務所であったため1件の契約となったことと、整理作業が中心であったことにより発掘調査事業は減少となった。

平成27年度の発掘調査は、国事業では南国安芸道路の香南市下井地区(仮称 宇賀・高田遺跡)の発掘調査と、県事業の、県道大久保伊尾木線改良工事に伴う岡遺跡の発掘調査、更に高知県保健衛生庁舎建て替え工事に伴う高知城跡北曲輪の発掘調査が予定されている。また、整理業務は、国事業である南国安芸道路の東野土居遺跡、高知西バイパスの西浦遺跡・奥名遺跡、県事業では図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡、県道大久保伊尾木線改良工事に伴う岡遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を中心に実施する予定である。国事業の南国安芸道路では、平成28年度まで東野土居遺跡などの整理作業を実施する予定であり、平成27

表4 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
平成23年度	6件	42,508㎡
平成24年度	3件	34,498㎡
平成25年度	4件	4,554㎡
平成26年度	0件	0㎡
合 計	325件	889,655㎡

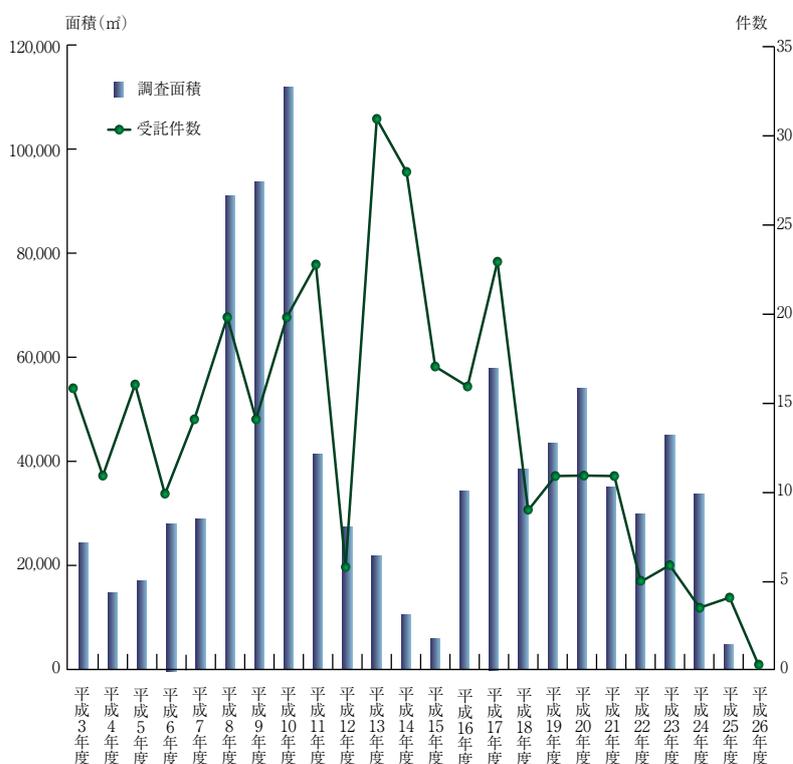


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

年度から香南のいちICから高知空港IC間の3.5kmについて試掘・確認調査の結果を得て香南市下井地区(仮称 宇賀・高田遺跡)の本調査が実施される予定である。一方、高知西バイパスは、いの町枝川IC(仮称)から鎌田IC(仮称)間が調査対象で、平成24年度に実施した天神溝田遺跡と奥名遺跡の調査で当面の発掘調査を終了した。平成26年度はバーガ森北斜面遺跡の報告書を刊行し、西浦遺跡、奥名遺跡の整理業務を平成27年度まで行う予定である。

埋蔵文化財センターの体制(図2、表3)は、前年度より1名減の正職員14名(嘱託職員と契約職員を含めると21名)であった。内訳は考古専門職員が10名(県派遣3名、財団職員5名、嘱託職員2名)、県派遣の事務職員が2名、派遣教員が4名、財団契約職員(事務補助)が5名である。組織構成は変わらず所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長1名、主任1名、契約職員2名、調査課は次長兼調査課長のもと普及教育事業等を行う企画調整班長を置き、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配置した。調査課の人員内訳は次長兼調査課長1名、企画調整班長1名、調査班長3名、調査員8名(専門調査員3名、主任調査員4名、調査員1名)、契約職員3名であり、この内実質的に整理作業を担当するのは考古専門職員7名、派遣教員1名である。

平成26年度の調査課の業務分担は、企画調整班が物品・遺物(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開、企画展等事業、公開講座等事業、出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務、調査第一班が南国安芸道路関係・県関係(教育委員会図書館整備課・文化生活部)、調査第二班が高知南国道路関係、調査第三班が高知西バイパス・県関係(教育委員会文化財課)に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成26年度の受託事業件数は3件で、すべて整理作業のみであった。これを遺跡数で見ると、7遺跡で、報告書を刊行した遺跡は4遺跡である。

委託元は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委

表5 平成26年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧

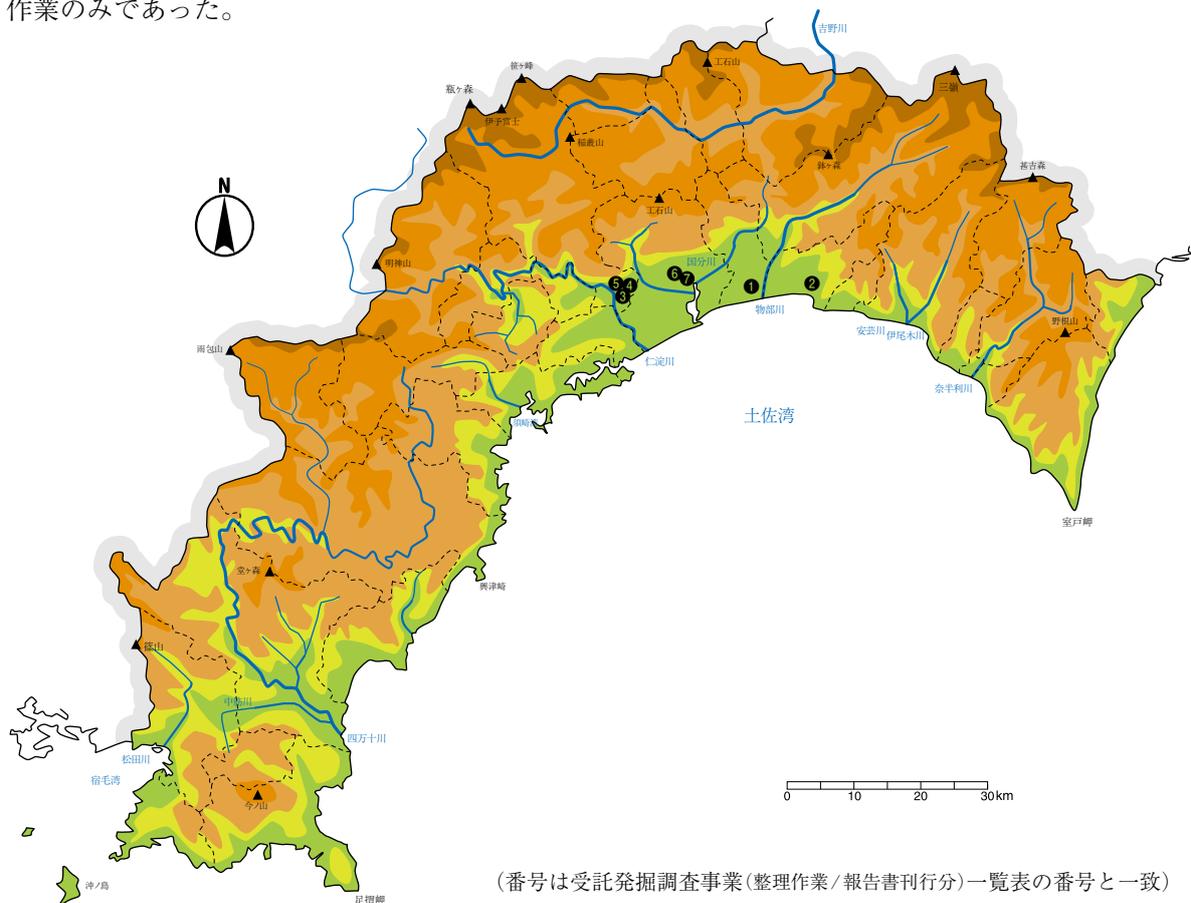
No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	田村遺跡群	10-3NTK 11-3NTK 12-1NTK	南国市田村	縄文 ~ 近代	集落跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	国交省	道路	県教委
2	東野土居遺跡	10-1KH 11-1KH	香南市野市町東野・土居	弥生 ~ 近世	集落跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	国交省	道路	県教委
3	バーガ森北斜面遺跡	11-5IB	吾川郡いの町バーガ森	弥生 ~ 近世	集落跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	国交省	道路	県教委
4	西浦遺跡	11-4IN	吾川郡いの町西浦	古代 ・ 近世	集落跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	国交省	道路	県教委
5	奥名遺跡	12-3IO	吾川郡いの町奥名	古代 ~ 近世	集落跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	国交省	道路	県教委
6	史跡高知城跡	13-3KK 13-4KK	高知市丸ノ内	近世	城跡	H26.4.1 ~ H26.8.31	県教委	史跡整備	県教委
7	追手筋遺跡	13-2KO	高知市追手筋	近世	屋敷跡	H26.4.1 ~ H27.3.31	高知県	建物	高知県

※ 田村北遺跡は調査後、田村遺跡群に名称変更された。

託1件で、高知県からの受託事業には県教育委員会図書館整備課の図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡の整理作業と史跡高知城跡追手門東北矢狭間堀石垣改修工事に伴う整理作業の計2件があった。

次に、各事業について具体的にみる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の事業には、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業がある。高知南国道路では、田村遺跡群(田村北遺跡として調査)の報告書作成を中心とした整理作業を行った。田村遺跡群については、平成24・25年度に発掘調査を実施した内容を『田村遺跡群Ⅲ』として報告書をまとめた。南国安芸道路では当面の工事区間である香南のいちICから芸西西IC間の発掘調査が終了し、整理作業に移った。引き続き東野土居遺跡を中心に整理作業を実施し、『東野土居遺跡Ⅱ』の報告書を刊行した。今後、平成27年度に『東野土居遺跡Ⅲ』、平成28年度に『東野土居遺跡Ⅳ』の報告書を刊行予定である。高知西バイパスでは平成22・23年度に発掘調査を実施した『バーガ森北斜面遺跡』の報告書を刊行した。今後、平成27年度に西浦遺跡と奥名遺跡の報告書を刊行予定である。県関係では、平成25年度に実施した新図書館建設に伴う追手筋遺跡の発掘調査の整理作業を実施した。また、平成25年に実施した史跡高知城跡追手門東北矢狭間堀石垣改修工事に伴う調査報告書を刊行した。

以上、平成26年度の受託事業の概要を記したが、発掘調査は0件で、報告書刊行を中心とした整理作業のみであった。



(番号は受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)

図6 平成26年度受託事業整理作業位置図

1. 発掘調査事業

(2) 発掘調査報告書

平成26年度は4冊(第141～144集)の報告書を刊行した。内訳は国関係が3冊(内、田村遺跡群は三分冊)、県関係が1冊であった。

事業別にみても、国関係では高知南国道路の『田村遺跡群Ⅲ(Ⅲ-1～3・付図)』、南国安芸道路の『東野土居遺跡Ⅱ』、高知西バイパスの『バーガ森北斜面遺跡』の3冊である。田村遺跡群は高知県南国市田村に所在し、物部川下流域の自然堤防に立地する。今次調査成果により、田村遺跡群の範囲が北方に大きく拡大することが明らかとなった。弥生時代中期末の竪穴建物跡を30軒検出し、1～3次調査分を合わせると495軒となった。その大部分は中期末～後期初頭に属し最盛期を迎え、中期末には四国はもとより列島規模でも屈指の弥生集落となる。古墳時代後期から古代、中世前期も連続と続く建物跡等が認められ、古代初期頃の水田跡も検出された。古代後期以降の搬入品では、畿内産黒色土器や初期貿易陶磁器の数、あるいは種類において当平野域で卓越した様相を示す。東野土居遺跡は高知県香南市野市町東野・土居に所在し、香宗川下流域の平野に立地する。今回の『東野土居遺跡Ⅱ』では、主に中世の遺構・遺物について報告されている。中世の遺構と遺物は東野土居遺跡の調査区全域から検出されており、区画溝に囲われた中に掘立柱建物跡や土坑がみられる。出土遺物の帰属時期は13～16世紀代であるが、中心的な時期は14～15世紀代におく事ができる。ⅢA区で検出された屋敷跡は一辺が54mを測り、屋敷地面積は1,900㎡に及び最大規模である。この区画溝の内部で検出された掘立柱建物跡も規模の大きなものが集中している。隣接するⅢB区においても一辺50mを測る区画溝を検出しており、出土遺物などから同時期のものと考えられ、大きな溝によって区画される屋敷群が形成されていた事が明らかとなった。また、弥生時代後期～古墳時代初頭・古墳時代後期の竪穴建物跡は調査区域東側のⅢB-1・2区で検出した。バーガ森北斜面遺跡は、標高30～90mの丘陵上に開けた弥生時代中期末の山の集落遺跡である。今回の調査では、三世庵地点、岩神地点の2地点の発掘調査が行われ、弥生時代中期末を中心とする竪穴建物跡が検出された。これらは、各地点に展開する集落単位の様相を知る貴重な成果といえる。出土遺物は、弥生時代中期末を中心とする土器・石器などであり、土器では「南四国型甕」と呼ばれる在地系要素の強い甕が多数出土した。石器の中では生産具である石包丁が比較的多く出土した。こうした生産道具の他に、

表6 平成26年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第141集	史跡高知城跡 追手門東北矢狭間堀石垣改修工事調査報告書	高知市丸ノ内	中内勝, 吉成承三, 筒井三菜
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第142集	田村遺跡群Ⅲ 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ)	南国市田村	出原恵三, 池澤俊幸, 久家隆芳, パリノ・サーヴェイ 株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第143集	東野土居遺跡Ⅱ 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ)	香南市野市町東野・土居	出原恵三, 下村裕, 久家隆芳, 矢野雅子, 筒井三菜
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第144集	バーガ森北斜面遺跡 高知西バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ	吾川郡いの町	吉成承三, パリノ・サーヴェイ 株式会社, 原田幹

投弾や大型打製石鏃など武器類も出土しており、「高地性集落」の性格を抽出するための成果があった。

以上が、平成26年度に刊行した報告書の概要である。発掘調査が完了した遺跡については平成26年度以降も順次報告書を刊行していく計画である。

註

(1) 国関係事業については国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。平成26年度国関係で契約したのは土佐国道事務所関係の1件で、高知南国道路外として高知南国道路(田村遺跡群)、南国安芸道路(東野土居遺跡)、高知西バイパス(バーガ森北斜面遺跡・西浦遺跡・奥名遺跡)の整理作業があった。

県関係は、県教育委員会から図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡の整理作業と史跡高知城跡追手門東北矢狭間堀石垣改修工事に伴う整理作業の2件となり、平成26年度発掘調査関係の受託件数の合計は3件であった。

2. 指定管理事業

平成26年度は、高知県教育委員会から高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行う指定管理者として指定された平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間の2年目であった。年間4回の展示会、78回の公開講座(展示会に伴うものを含む)、94校(97回)の出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など普及教育事業に取り組んだ。今年度はあらたに地域の特性を活かした史跡等総合活用支援事業の支援を受け埋蔵文化財を活用した地域展や講演会、ワークショップ等の開催を通じ埋蔵文化財の保護の推進及び普及啓発を図った。また、親しみやすい埋蔵文化財を目指すため高知県立埋蔵文化財センターのマスコットキャラクターの着ぐるみを製作・活用すると共に発掘調査で出土した代表的な遺物の立体パズルや遺物のレプリカなどの製作準備等を行った。さらに、報告書に掲載された遺物の再整理等を行い、有効的な活用を図った。



写真1 年間行事カレンダー

埋蔵文化財センターの入館者は、展示・施設見学者と公開講座の参加者が中心で、年間10件程度の出土文化財等の調査のための来館者や体験学習に訪れる小中学生もみられた。平成26年度の入館者総数は3,120人で、過年度の増加率と平成25年度の入館者総数3,205人を基に設定した平成26年度の入館者数目標3,300人にはおよばなかった。今後、埋蔵文化財センターへの入館者を増やしていくには、親子考古学教室については継続的に取り組み、公開展示、公開講座の参加者を確保した上で、小中学校の団体見学を招致することが大きな鍵を握っているものと思われる。出前考古学教室などを利用して施設を紹介すると共に埋蔵文化財センターに在籍したことのある教員に呼びかけ等を行って行かなければならない。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査成果の公開活用のため昨年度と同じく年間を通じて4本の展示会を行った。入館者は最終的に昨年度(3,205人)より85人少ない3,120人で、対

2. 指定管理事業

前年度比は約3%減となり、本年度の入館者目標である3,300人を上回ることはできなかった。しかしながら、2期連続で3,100人を越えるなど、広報普及へ向けての努力の成果は表れている。

本年度の団体見学の申込みは12件(昨年度比33件減)であった。発掘調査がないため、展示施設見学と体験学習希望の団体見学のみであった。そのため、団体見学者数は前年度より224人減少し、対前年度比は約27%の減であった。なお、これまでの団体見学者数の推移は表15のとおりであり、団体見学者数が入館者の約20%で、比較的大きなウエイトを占めている。今後も入館者目標を達成するには、団体見学の誘致が大きな鍵を握っているといえよう。

各展示会については、以下のとおりである。

① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で、旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示することで、高知県の歴史を概観できるように心掛けた。会期は4月21日から6月21日まで、入館者は686人で昨年度よりさらに61人増え、対前年度比は約10%の増であった。

② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展

四国四県の埋蔵文化財センターの共同の巡回展で、平成21年度から6ヵ年計画で「続・発掘へんろ」を開催しており、本年度が最終回となる。本年度は「四国の近世」をテーマに、四国の遺跡から出土した出土品を「城」、「地域の焼物」、「流通」、「生活」、「食事」、「墓」、「文字」の7つの部門に分けて展示した。会期は6月30日から9月7日、入館者1,320人で昨年度より111人減り、対前年度比は約8%の減であった。会期中、悪天候のため当センターにおける親子考古学教室の中止が相次いだことがそのまま反映した形となっている。

③ 企画展2

企画展2では、昨年度より「発掘調査で明らかになった遺跡展」というシリーズを実施しており、本年度はその2回目として「発掘調査で明らかになった遺跡展2」-天神溝田遺跡-を9月29日から11月29日まで開催した。実際の展示では吾川郡いの町の天神溝田遺跡とその周辺の遺跡を対象とし、縄文時代から近世にわたる遺跡や遺物から窺える人々の生活の暮らしぶりや他地域との交流の様子を広く紹介することができた。会期中の入館者は560人で、昨年度に比べて145人増加し、対前年比は約35%の増となった。昨年度に比べ学校団体の見学が多

かったことが入館者増加の主立った要因ではあるが、一般(主に大人)向けの展示内容であるのに入館者の増減が学校団体の来館に左右される現状にあること、遺跡周辺の地域住民などへの具体的な来館への働きかけがまだまだ十分でないことなどの課題は残されたままであり、具体的な検討が必要である。



写真2 企画展1ポスター



写真3 企画展2ポスター



写真4 特別展ポスター

④ 特別展

本年度は12月15日から平成27年3月14日まで会期で、「居徳遺跡群とその時代」と題した高知県の縄文時代にスポットをあてた特別展を開催した。入館者は昨年度より225人少ない396人(会期中は379人会期外での団体見学17人含む)で、対前年度比は約36%の減であった。また、関連企画として、2月1日高知県立文学館ホールで丹羽佑一香川大学名誉教授を講師に「高知県の縄文時代の社会と文化」と題した記念講演会を開催し、参加者は80名で昨年度より2名の増加となった。上記以外にも公開講座の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を各1回の計4回と展示品解説を各2回(午前と午後の各1回)の計8回実施しており、入館者に対し展示だけではなくきめ細かい展示サービスを行った。また、通常の展示解説への対応として展示室入口前に案内板を設け、入館者の要望に応じた展示解説を随時行った。



写真5 特別展記念講演会

⑤ 移動展

また本年度は、1月17日から2月1日までの期間、四万十市立中央公民館を会場に四万十市教育委員会と共催の形式で、移動展「幡多地域の遺跡展」を開催した。期間中は、当館1階ロビーに幡多地域の発掘調査で出土した代表的な遺物を展示し、四万十市の遺跡の様子等を紹介するパネルを掲示した。また、開催初日の1月17日には、ワークショップ(銅鏡づくり・3D土器パズルコーナー・塗り絵コーナーなど)や愛媛県立歴史文化博物館



写真6 移動展パンフレット

表7 入館者推移表と平成26年度の入館者

年度	合計 (人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)								展示報告・解説 参加人数(人)
		子供	大人	常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	
H13年度	811	487	324	811	-	-	-	-	-	-	-	-
H14年度	821	493	328	177	-	644	-	-	-	-	-	-
H15年度	1,171	703	468	468	-	703	-	-	-	-	-	20
H16年度	1,523	913	610	402	802	319	-	-	-	-	-	-
H17年度	1,318	787	531	431	542	345	-	-	-	-	-	17
H18年度	1,555	582	973	504	449	-	-	-	-	482	120	47
H19年度	2,182	348	1,834	392	809	501	-	-	333	-	147	87
H20年度	2,561	740	1,821	-	1,224	-	451	328	253	-	305	147
H21年度	2,866	905	1,961	-	1,417	-	508	388	363	-	190	170
H22年度	2,816	1,019	1,797	-	1,558	-	347	331	383	-	197	104
H23年度	3,058	1,035	2,023	-	1,521	-	490	466	369	-	212	147
H24年度	2,854	1,074	1,780	-	1,247	-	557	595	338	-	117	110
H25年度	3,205	1,342	1,863	-	1,431	-	625	415	621	-	113	208
H26年度	3,120	1,428	1,692	-	1,320	-	686	560	396	-	158	117
合計(人)	29,861	11,856	18,005	3,185	12,320	2,512	3,664	3,083	3,056	482	1,559	1,174

2. 指定管理事業

の兵頭勲氏による講演会「遺跡から見る西南四国の地域性の芽生え」、当館キャラクター（文蔵くん・まいちゃん）の着ぐるみお披露目などを行った。当日は、ワークショップ、講演会、公開展示含めて、のべ約70名の参加を得た。



写真7 文蔵くん・まいちゃん

さらに、来年度香南市で開催予定の移動展のプレイベントとして2月21日から3月8日の期間にミニ移動展を開催し、420名の参観者を得た。来年度同時期に香南市において、県東部の遺跡や出土文化財を紹介する移動展を開催する予定である。

(2) 公開講座等

講座として遺跡解説会4回、考古学からわかる歴史教室4回、授業にいかせる考古学教室1回、古代ものづくり体験教室20回、親子考古学教室35回(計画では40回)及び各展示会に伴う展示報告会4回と展示解説会8回(午前・午後)、そして特別展記念講演会・移動展講演会各1回の合計78回(計画では83回)を開催し、1,670人(館外講演会含む)の参加者があつた。昨年度より12人多く(対前年度比約1%増)、内訳はやはり親子考古学教室の参加者数の増加がそのまま反映した結果となっている。

各講座の平均参加者数は、遺跡解説会が約17人(募集定員約40人)、考古学からわかる歴史教室が約13人(募集定員約40人)、親子考古学教室が約33人(同伴者を含む、募集定員約30人)、古代ものづくり体験教室が約12人(募集定員約20人)、展示報告会約17人(募集定員約40人)、展示品解説約12人(募集定員各約20人)であつた。親子考古学教室については、知名度が年々上がってきているが、その他の講座はいずれも平均参加者数が募集定員を下回っている。概して参加希望が多かつた講座はいずれも体験型の講座であり、考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座は総体的に参加者の伸び悩みがみられる。減少の要因

の一つは、昨年度は行つていたダイレクトメールによる参加呼びかけを前半行つていなかったことがあげられ、次年度はダイレクトメールは必ず行う必要があると考える。

次に、参加者の年齢・性別についてみると、これまで同様体験型の講座である古代ものづくり体験教室では、講座内容によって年齢層にやや異なる傾向が窺えるものの、30歳代以上の女性が大半

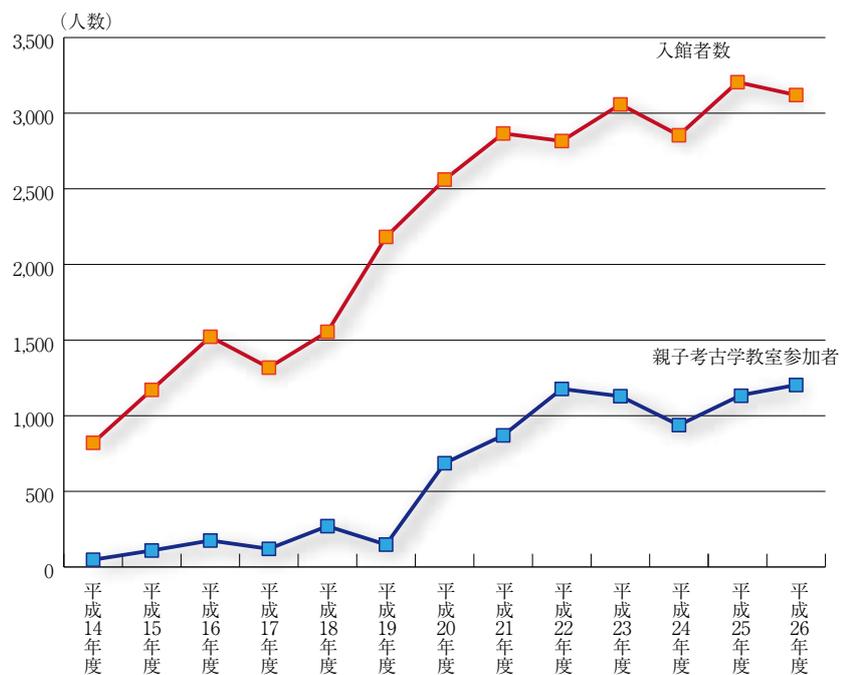


図7 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

を占めている。一方、考古学講座や発掘調査報告会など考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座では、概して男性の割合が高く、中心は50歳代から70歳代で、全体の半数は50・60歳代の方であった。

このように、体験型の講座では、本年度もやはり女性が中心でかつ比較的若い方の参加や家族連れでの参加も目立つようになってきた。このことから、体験型の講座は女性の入館者数や支持層を増やすのに有効な事業と考えられる。座学を中心とする講座は、実年の男性の参加者が中心であり、考古学に興味を持ちつつ、より深く歴史を学びたい方といえ、講座内容も考古学の専門的な内容を維持しつつ、歴史や現代社会の事象と絡めながら一層興味を持って頂ける内容にしていくことが重要と思われる。調査員も自分の研究成果を発表し広めていける場と捉え、積極的に参加する必要があると考える。なお、1,203人の参加のあった親子考古学教室では大人が497人(昨年度比25人増)、子供(大半は小学生)が706人(昨年度比46人増)で、大人1人に対して子供平均1.4人の参加と、少子化の影響が激しいが、付き添う大人がいっしょに製作を楽しむ姿や、家族や三世代で参加する姿も目立ち、参加者層の広がりは強く感じられた。この親子考古学教室はチラシを配付して以来開催日によっては定員以上の募集がある最も人気の講座であるため開催回数を40回(30人/回)としているが、前述のような傾向からも、今後積極的にボランティアの協力を得ることが不可欠である。しかし、昨今の大学の夏休みの開始が8月上旬からとなったこともあり、ボランティアを集めることが難しくなっている。大学機関と積極的に連携を図るなど、今後の検討が必要であろう。

高知県立埋蔵文化財センターの指定管理代行業務を行って以来、定期的に公開講座を開催し、回数・内容共に充実を図ってきた(平成26年度は78回)。公開講座等への参加者は平成20年度に飛躍的に伸びたものの、平成22年度以降は伸び悩んでおり、参加者数増加のためには、さらに内容の吟味や広報の工夫など地道な努力を行っていくことが不可欠であると考えられる。

表8 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		考古学講座	発掘調査報告会	授業にいかせる考古学教室	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会
平成13年度	－	－	－	－	－	－	－
平成14年度	48人	－	－	－	48人	－	－
平成15年度	109人	－	－	－	109人	－	－
平成16年度	175人	－	－	－	175人	－	－
平成17年度	120人	－	－	－	120人	－	－
平成18年度	431人	136人	－	－	270人	－	25人
平成19年度	444人	110人	138人	9人	146人	35人	6人
平成20年度	1,122人	83人	173人	10人	686人	148人	22人
平成21年度	1,187人	99人	106人	6人	870人	89人	17人
平成22年度	1,499人	80人	137人	7人	1,177人	67人	31人
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人	124人	11人
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人	157人	19人
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	－
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	－
合計	10,753人	782人	901人	61人	8,003人	875人	131人

※25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、授業にいかせる考古学教室は先生のための考古学講座に名称変更。

2. 指定管理事業

表9 平成26年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月21日～6月21日)		686人	古代ものづくり体験教室		考古学からわかる歴史講座			
「企画展1」報告会	5月10日(土)	7人	1	5月24日(土)	11人	1	5月17日(土)	12人
展示品解説	6月7日(土)	14人	2	6月21日(土)	19人	2	7月12日(土)	19人
巡回展(6月30日～9月7日)		1,320人	3	10月11日(土)	15人	3	11月15日(土)	10人
「巡回展」報告会	7月5日(土)	12人	4	11月8日(土)	9人	4	1月24日(土)	11人
展示品解説	8月2日(土)	6人	5	11月17日(月)	11人	遺跡解説会		
企画展2(9月29日～11月29日)		560人	6	12月6日(土)	12人	1	6月14日(土)	23人
「企画展2」報告会	10月4日(土)	6人	7	12月20日(土)	8人	2	9月6日(土)	8人
展示品解説	11月1日(土)	10人	8	1月19日(月)	11人	3	10月18日(土)	20人
特別展(12月15日～3月14日)		379人	9	2月14日(土)	15人	4	11月29日(土)	18人
「特別展」報告会	1月10日(土)	44人	10	3月14日(土)	12人	授業にいかせる考古学教室		
記念講演会	2月1日(日)	80人					8月4日(月)	6人
展示品解説	2月28日(土)	18人						

なお、事業案内を年間行事カレンダーやホームページ等で行う一方、報道機関への告知放送の依頼を行うなど周知を図った。葉書での開催案内の送付については前述の通り前期は行っていなかったが、後期は行い一定の効果があることが確認できた。次年度は各月行うようにする。

これ以外に高知県文化財団主催の県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知に参加し、3月7日に出土遺物展示・センター業務紹介(パネル・ビデオ上映)・どきどき土器パズル・遺跡クイズラリー・古代ものづくり教室・古代人衣装体験イベントを松山考古館の協力も得て開催した。当日は家族連れや子どもたちを中心に213人に及ぶ来場者を得、企画内容も大変好評で、今後も開催継続していく必要を感じた。

① 考古学からわかる歴史講座

従来の「考古学講座」に代わって昨年度から開催し始めたもので、本年度は年4回、13時30分から15時30分までの2時間にわたる教室として埋蔵文化財センターにおいて実施した。

本年度は、1回、夏休みの自由研究に焦点を当てた講座を行い、夏休み前という時期ではあったが、小学生と保護者のみならず高校生や教員、歴史愛好者と幅広い参加者を得た。これをヒントに、来年度はより具体的なテーマを立て、多くの方が参加しやすいような初心者向けの講座を行う予定である。参加総数は52人で対前年度比は約21%減であった。

② 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査のうち、注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ、視聴覚機器を活用して平易かつ視覚的に解説すると共に出土遺物も実見してもらい、より一層遺跡についての理解を深めて頂いた。年4回、1回90分間の講座で、埋蔵文化財センター内で実施した。参加総数は69人で、昨年度より32人減少し、対前年度比は32%減であった。

平成27年度も、報告書が刊行された遺跡や新たに発掘調査が行われた遺跡を紹介する講座を計画している。



写真8 親子考古学教室2014

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子を対象とした体験型講座である。県内の小学生全員に親子考古学教室のチラシを夏休み前に配付し、周知を図った。本年度は、昨年度の埋蔵文化財センター・宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・安芸市・室戸市に加え、嶺北地域の本山町でも開催し、合計40回の実施を計画したが、集中豪雨による避難勧告の発令や台風接近のため、8月3・9日の2日分計4回が中止、8月10日は延期し回数を減らして実施(本山町2回→1回)となり、合計35回の実施にとどまった。参加人数は総計1,203人(内訳大人497人、子ども706人)で一昨年度の938人、昨年度の1,132人から増加傾向が続いている。また、実施に際してはボランティア延べ22人の協力を得た。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学に関心を持って頂き、埋蔵文化財センターとの連携を深めるため企画した講座で、夏休み期間中の8月4日(月)に実施した。昨年度から、教員10年次研修の選択対象ともなり、小・中・高・特別支援学校の多岐にわたる校種から6人の参加があった。

内容は、午前が考古学概説や展示遺物解説、午後は古代ものづくり体験・整理作業体験・収蔵庫での遺物検索体験から選択した活動とし、参加者には好評であった。

⑤ 古代ものづくり体験教室

平成24年度から「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」「土器づくり」の4つのメニューで全20回開催し、本年度は123人の参加を得た。参加者がリピーターに偏る傾向が見られ、より幅広い層に届く広報展開が求められる。来年度からは編布づくりを取り入れる予定である。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、インターネット上のホームページの管理

表10 平成26年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成26年5月17日)	古代	池澤俊幸
第2回(平成26年7月12日)	自由研究に使える考古学	茂松清志
第3回(平成26年11月15日)	中世	坂本裕一
第4回(平成27年1月24日)	近世	藤野明弘

表11 平成26年度発掘調査報告会(遺跡解説会)

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成26年6月14日)	追手筋遺跡	徳平涼子
第2回(平成26年9月6日)	香南市徳王寺地区の遺跡	下村 裕
第3回(平成26年10月18日)	田村西遺跡	久家隆芳
第4回(平成26年11月29日)	高知城跡	筒井三菜

表12 平成26年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※ 7月19日(土)	14人	21人	14人	17人	66人	※ 8月13日(水)	5人	6人	15人	20人	46人
※ 7月20日(日)	16人	21人	12人	22人	71人	8月16日(土)	16人	20人	22人	22人	80人
7月23日(水)	18人	22人	16人	24人	80人	※ 8月17日(日)	14人	21人	3人	6人	44人
※ 7月26日(土)	10人	13人	1人	4人	28人	8月18日(月)	14人	23人	15人	22人	74人
※ 7月27日(日)	16人	26人	14人	18人	74人	8月21日(木)	14人	22人	16人	21人	73人
7月29日(火)	14人	24人	14人	25人	77人	8月23日(土)	18人	26人	19人	24人	87人
7月31日(木)	14人	22人	12人	21人	69人	8月24日(日)	21人	23人	19人	24人	87人
8月5日(火)	15人	21人	18人	22人	76人	※ 8月30日(土)	7人	9人	-	-	16人
8月7日(木)	16人	24人	15人	21人	76人						
8月11日(月)	14人	26人	16人	23人	79人	合計	256人	370人	241人	336人	1,203人

※は館外で実施

2. 指定管理事業

更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDF形式の電子データとして公開している。展示会パンフレットなど新たな出版物を随時追加更新しており、インターネットを介して、最新のデータを閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料の公開活用を大きく進めることができた。全国的にも利便性のあるコンテンツである。また、埋蔵文化財センターの活動記録として平成25年度の業務実施内容をまとめた『年報23号』を発刊した。

① ホームページ

平成19年度にリニューアルした後、同じテンプレートを使用して平成26年度版に更新すると共により見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日20～30件であった。

(公財)高知県埋蔵文化財センター URL：<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>



写真9 ホームページ

② Web公開データベース

平成16年度から始めたWeb公開データベースは報告書PDF等印刷物のみの公開となった。遺跡データベースは最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ公開されることになった。一方、報告書PDFについては高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認されユーザーに分かりやすいサイト構成を心がけている。

なお、報告書PDFは名前のとおり、PDF形式の報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成26年度は刊行された報告書と年報第23号及び展示会のパンフレットなどを新たに掲載した。

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づき登録し、情報管理データベースを更新することにより活用の便を図った。

遺物、写真、図書等の資料の貸出しについても、出土文化財15件、物品2件、写真掲載許可等16件の借用依頼等に対し文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、迅速に対応した。平成26年度の主な貸出先は愛知県陶磁資料館、高知県立歴史民俗資料館、県内の公立学校、愛媛県

表13 平成26年度Web公開した報告書等

開催日	種類	発行年月日
年報23号(平成25年度実績)	年報	2013.10.15
巡回展第5回「続・発掘へんろ」	パンフレット	
企画展2	パンフレット	
特別展	パンフレット	
史跡高知城跡	発掘調査報告書	2014.8.25
田村遺跡群Ⅲ	発掘調査報告書	2015.3.20
東野土居遺跡Ⅱ	発掘調査報告書	2015.3.20
バーガ森北斜面遺跡	発掘調査報告書	2015.3.20

歴史文化博物館, 多摩美術大学美術館などであった。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており, 平成26年度は12件の団体見学の受け入れを行った。今年度は発掘調査がなく, 発掘現場見学者は0人であったが, 施設見学は613人であった。次年度は, 発掘調査も複数箇所予定されており, 発掘現場見学や発掘体験を含め, 学校関連団体を中心としてさらに幅広く団体見学を招致していくことが重要になってくると考える。

学校関連団体の展示施設見学は10件と昨年度より減少した。やはり, 学校関連組織の団体見学が入館者数を大きく左右する傾向が強い。ただ, 出前考古学教室に向いた学校数は年々増加傾向にあり, 内容の工夫やセンターへ来館しないといけない何かが求められてきている。一方, 職場体

表14 平成26年度物品・遺物(県有物)貸出一覧

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
1	愛知県陶磁資料館	田村遺跡群出土能茶山焼, 能茶山窯出土能茶山焼	H26.4.1 ~ H27.3.31	常設展「猿投・全国古窯陶磁資料展」で展示
2	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土遺物他	H26.4.1 ~ H27.3.31	常設展で展示
3	四万十町立興津中学校	学校貸出セット1	H26.4.18 ~ 5.30	社会科歴史分野の授業で使用
4	高知市立高須小学校	学校貸出セット1	H26.4.24 ~ 5.2	第6学年社会科の授業で使用
5	東北大学総合学術博物館 教授 柳田俊夫	奥谷南遺跡出土旧石器	H26.6.23	東北地方と西日本地域の旧石器の比較研究のための実見・実測・観察
6	愛媛県埋蔵文化財センター 調査課長 中野良一	宿毛貝塚, 奥谷南遺跡, 西分増井遺跡, 居徳遺跡群出土縄文土器	H26.6.25 ~ 6.27	土器に含まれる鉱物組成のデータの集積のための実見・実測・観察
7	高岡郡越知町 山本武美	女川遺跡出土土器, 石器	H26.7.17	考古研究のための実見・観察
8	愛媛県歴史文化博物館	飼古屋岩陰遺跡出土土器・石器, 奥谷南遺跡出土土器・石器	H26.9.4 ~ 12.10	個人研究のための熟覧・写真撮影
9	徳島県立博物館 岡本治代	野田廃寺出土瓦	H26.9.11	平成27年度開催予定の企画展に伴う借用資料の事前調査
10	(公財)古代学協会 客員研究員 森岡秀人	田村遺跡群出土土器・石器・青銅器・鉄器, 居徳遺跡群出土土器・木製品	H26.9.16	農耕社会形成期の土器・石器・木器・金属器の研究のための熟覧観察・写真撮影・実測・略測図作成
11	愛媛県埋蔵文化財センター 調査課長 多田 仁	宿毛貝塚出土土器	H26.10.31	調査研究のための遺物観察・写真撮影
12	多摩美術大学美術館	天崎遺跡出土青銅器, 花宴遺跡出土木製品・土器, 居徳遺跡群出土土器, 具同中山遺跡群出土土器・石製品・土製模造品, 比江廃寺出土瓦他	H26.11.4 ~ H27.2.上旬	「四国霊場開創1200年記念 祈りの道へー四国遍路と土佐のほとけー」展に出品のため
13	愛媛県埋蔵文化財センター 調査課長 中野良一	宿毛貝塚出土土器	H26.11.17	縄文時代の遺物調査のための実見・実測
14	和歌山県立紀伊風土記の丘 学芸員 瀬谷今日子 (公財)愛知県教育・スポーツ 振興財団	アゾノ遺跡出土土器, 具同中山遺跡群出土土器	H26.12.16	平成27年度秋期特別展にかかる調査のための実見
15	愛知県埋蔵文化財センター 永井宏幸 愛知県教育委員会生涯学習課 原田 幹	田村遺跡群出土土器・石器, 居徳遺跡群出土土器・石器	H27.2.18 ~ 2.19	弥生時代の調査研究のため

2. 指定管理事業

表 15 平成 26 年度施設見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容	体験学習の内容
1	南国市立大篠小学校3年1組・3組	H26.5.22	73人	4人	77人	展示見学, 館内見学	
2	南国市立大篠小学校3年2組・4組	H26.5.29	71人	4人	75人	展示見学, 館内見学	
3	高知市立秦小学校	H26.5.30	122人	5人	127人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし, 勾玉づくり
4	南国市立教育研究所	H26.7.26	10人	4人	14人	遺跡学習, 体験学習	勾玉づくり
5	高知市立初月小学校	H26.10.3	138人	5人	143人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし, 勾玉づくり
6	高知市立土佐山小学校	H26.10.3	15人	3人	18人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし
7	土佐町立土佐町小学校	H26.10.20	50人	4人	54人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	勾玉づくり
8	愛媛大学法文学部考古学研究室	H26.11.1	13人	2人	15人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学	
9	三好郷土史研究会	H26.11.19	18人	0人	18人	遺跡学習, 展示見学	
10	香南市立夜須小学校	H26.12.12	29人	3人	32人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	火起こし
11	南国市立三和小学校	H27.3.6	20人	3人	23人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
12	民俗文化遺産研究員四国研修旅行	H27.3.16	16人	1人	17人	展示見学, 館内見学	
合計			575人	38人	613人		

体験学習の受け入れ数は倍増(2校→4校:内訳, 南国市立北陵中学校[2人]高知市立介良中学校[4人]高知市立大津中学校[3人]高知市立三里中学校[3人])した。また, 2大学(神戸女子大学, 高知県立大学)より1名ずつの博物館実習生の受け入れを行った。当センターでは, 考古学に関連する実習や研修を受け入れる体制を取っており, 年度によって申込みの増減こそみられるものの, 毎年生徒や学校機関から高評価を受けている。今後, 学校機関との連携をさらに強め, 主体的積極的に取り組んでいくことが当センターの業務の理解推進や文化財保護の普及啓発活動にも大きく関わってくるものと考えられる。

(4) 出前考古学教室

出前考古学教室は本年度で17年目を迎える。本年度までの実施回数は783回, 実施校は延べ842校, 授業を受けた児童生徒は小学校を中心に延べ28,631人, 見学者等を含めると参加児童生徒数は37,331人を数える。年々実施校が増えてきており, 今までの普及活動の成果といえる。

① 概要

本年度は94校の応募があり, すべての学校で実施した。校種別では小学校89校, 中学校4校, 高等学校1校である。授業等を受けた児童生徒は3,660人である。実施に際しては, 前年度に各学校に文書を送付し, 4月初旬から中旬にかけて実施校と電話及びファックスで開催日時や学習等の内容について打ち合わせを行った。前期は4月18日の興津小学校を皮切りに, 8月25日の片地小学校まで, 78校, 78回の実施であった。後期は9月6日の多ノ郷小学校から2月19日の神田小学校まで16校, 19回の実施であった。

② 内容

i 授業「地域の遺跡」

授業は、小・中・高等学校の希望に沿った内容に基づき行った。小学校は6年生を中心にして歴史学習の一環と捉えて授業を希望する学校がほとんどであった。各学校では日本の代表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡を知らない児童生徒が多いため、遺跡地図を学校別に作成し、身の回りでどのような遺跡があるのかを学習した。そのほか遺物や遺構とは何か、発掘の仕方や整理作業の進め方、当センターの事業内容などについてパワーポイントを使って約30分間説明した。

ii 展示解説「高知県の遺物展示」

高知県で発掘された遺物を旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世とそれぞれの時代に分けて展示を行った。それぞれの時代の特徴を分かりやすく説明し、児童生徒の興味や関心を高める工夫をした。また、直接土器や石器に触れ、他ではあまりできない体験をする機会を設けた。古代の人々が実際につくった遺物で、昔の人々の生活と現代の生活を考え、比較するきっかけとなった。



写真10 展示解説

iii 体験学習

火起こし

火きり板とマイギリを使って火を起こす活動である。マイギリを中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアはキリモミ(モミギリ)にチャレンジすることになっている。この体験は、自然物を使った道具で火を起こすことによって、現代の恵まれた環境を見直す契機となる。火起こしは体力や根気も必要で、簡単にはできないが火を起こすことができれば達成感を得ることができる。また、日本では古来より火を神聖なものとして大切に生きており、火は生活の手段だけではないことも説明し、現代の生活を考え直す機会とする学習である。



写真11 火起こし

勾玉づくり

勾玉は市販のセットを使って作成した。材料の滑石は柔らかく工作が容易なため、児童生徒は短時間でオリジナル勾玉を作成することができる。勾玉は、子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く、高知県でも数多くの勾玉が出土している。このような由来を学習した後、作り方を説明し約60分で勾玉づくりを行った。石に絵を描き、ノコギリで切り、サンドペーパーで磨く作業である。自分独自のもの(世界で一つだけのもの)が作れる喜びは毎年変わらず人気である。



写真12 勾玉づくり

土器づくり

今年度も昨年と同じく3校の希望があった。後期だけに限られる活動である。2回で1セットで、とうくろう粘土を使って土器をつくり、1ヶ月間乾燥させて土器焼きを行う。土器づくりをすると土器の文様に着目するため展示解説でも見る目が違ってくる。遺物に対する興味関心を高めるには絶好の体験である。野焼きも経験している児童生徒は少なく、初めての焼き物を喜んでいる児童も多かった。より多くの学校での実施を行いたい。



写真13 土器づくり

③ 本年度の成果と今後の取り組みについて

前期の実施期間は4ヶ月と短い、小学校の授業と平行しての考古学教室を希望している学校が多く、希望が前期に集中している。後期は希望校が少ないので工夫した広報活動が必要である。年間を通じて実施回数が増加していることは喜ばしい限りであるが、県東部地域の応募が少ないことから、これらの地域への普及活動に一層力を入れていくことが大切と考える。また、中学校や高等学校への広報普及を積極的に取り組んでいきたい。

活動内容について

授業では、視聴覚機器を使い、遺構や遺物の写真に興味をもてるような工夫をしている。児童生徒の感想では、授業が楽しい、わかりやすい、遺跡に興味を持ったという意見が多い。展示は、高知県で発掘された遺物を展示している。現代人の生活と昔の人々の生活について、類似点と相違点を比較して興味関心を高めた。何より古代の人々の作った土器に触れることができる体験は貴重である。火起こしは、ペアでの活動であり、協力することの大切さを知ることができる。また、火がついた体

表16 平成10～26年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前期	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前期	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前期	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前期	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前期	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中・高等学校	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中・高等学校	65回	66校	前・後	2,470人	2,571人
14	平成23年度	全県下	小・中・高等学校	61回	64校	前・後	2,045人	2,223人
15	平成24年度	全県下	小・中・高等学校	79回	71校	前・後	2,710人	2,937人
16	平成25年度	全県下	小・中・高等学校	87回	79校	前・後	3,184人	3,242人
17	平成26年度	全県下	小・中・高等学校	97回	94校	前・後	3,660人	3,660人
合計				783回	842校		28,631人	37,331人

表17 平成26年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)1

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	4/18(金)	四万十町	興津小学校	3~6	2	18
2	4/21(月)	香美市	香長小学校	6	1	6
3	4/23(水)	黒潮町	佐賀小学校	6	1	18
4	4/24(木)	高知市	介良潮見台小学校	6	2	54
5	4/25(金)	本山町	本山・吉野小学校	6	2	21
6	4/28(月)	いの町	川内小学校	6	1	19
7	4/30(水)	香美市	楠目小学校	6	1	22
8	5/1(木)	須崎市	吾桑小学校	6	1	16
9	5/1(木)	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	16
10	5/2(金)	室戸市	羽根小学校	6	1	12
11	5/7(水)	須崎市	南小学校	5・6	2	7
12	5/8(木)	大月町	大月小学校	6	1	39
13	5/9(金)	四万十市	具同小学校	6	3	89
14	5/12(月)	四万十市	下田小学校	6	1	9
15	5/13(火)	宿毛市	咸陽小学校	6	1	27
16	5/13(火)	黒潮町	上川口小学校	5・6	2	20
17	5/14(水)	高知市	鏡小学校	5・6	1	15
18	5/15(木)	高知市	旭小学校	6	2	73
19	5/15(木)	香美市	片地小学校	6	1	19
20	5/16(金)	高知市	久重小学校	6	1	10
21	5/16(金)	いの町	伊野南小学校	6	1	35
22	5/19(月)	南国市	日章小学校	6	1	36
23	5/19(月)	高知市	潮江小学校	6	3	76
24	5/20(火)	馬路村	馬路小学校	5・6	1	9
25	5/21(水)	土佐市	高石小学校	6	1	16
26	5/22(木)	四万十市	東中筋小学校	6	1	13
27	5/22(木)	四万十市	竹島小学校	5・6	2	15
28	5/23(金)	安芸市	伊尾木小学校	6	1	8
29	5/26(月)	高知市	一ツ橋小学校	6	2	54
30	5/26(月)	南国市	長岡小学校	6	2	43
31	5/27(火)	大豊町	おおとよ小学校	6	1	12
32	5/28(水)	土佐市	宇佐小学校	6	1	36
33	5/29(木)	黒潮町	入野小学校	6	1	25
34	5/30(金)	津野町	中央小学校	6	1	12
35	6/2(月)	高知市	潮江東小学校	6	3	96
36	6/2(月)	高知市	小高坂小学校	6	2	46
37	6/3(火)	土佐市	北原小学校	5・6	2	16
38	6/3(火)	土佐市	蓮池小学校	6	1	37
39	6/4(水)	いの町	吾北小学校	6	1	12
40	6/5(木)	三原村	三原小学校	6	1	13
41	6/6(金)	四万十市	川登小学校	5・6	1	10
42	6/6(金)	黒潮町	田ノ口小学校	6	1	14
43	6/8(日)	高知市	高知大学教育学部附属小学校	5・6	4	122
44	6/9(月)	宿毛市	小筑紫小学校	5・6	2	28
45	6/10(火)	黒潮町	三浦小学校	6	1	10
46	6/10(火)	四万十市	東山小学校	6	2	46
47	6/11(水)	須崎市	新莊小学校	6	1	15
48	6/12(木)	室戸市	三高小学校	5・6	1	3
49	6/12(木)	東洋町	甲浦小学校	6	1	14
50	6/13(金)	南国市	大湊小学校	4~6	1	31
51	6/16(月)	香美市	大宮小学校	6	1	35
52	6/17(火)	高知市	昭和小学校	6	3	88
53	6/17(火)	高知市	十津小学校	6	2	60
54	6/18(水)	仁淀川町	長者小学校	6	1	10
55	6/19(木)	四万十市	大用小学校	5・6	1	10
56	6/20(金)	土佐清水市	幡陽小学校	5・6	2	14
57	6/22(日)	南国市	後免野田小学校	4	1	38
58	6/22(日)	須崎市	須崎中学校	2	2	75
59	6/22(日)	香美市	山田小学校	4	2	76
60	6/23(月)	高知市	初月小学校	6	4	140
61	6/24(火)	四万十町	東又小学校	3~5	3	38
62	6/25(水)	越知町	越知小学校	6	2	43
63	6/26(木)	土佐清水市	清水小学校	6	2	53
64	6/27(金)	高知市	高知北高等学校	1~3	1	20

2. 指定管理事業

表18 平成26年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
65	6/27(金)	高知市	潮江南小学校	6	2	58
66	6/29(日)	田野町	田野中学校	1・2	2	37
67	6/30(月)	南国市	大篠小学校	6	4	133
68	7/1(火)	高知市	五台山小学校	6	1	15
69	7/1(火)	高知市	旭東小学校	6	2	74
70	7/2(水)	高知市	土佐塾中学校	2	5	207
71	7/3(木)	高知市	横浜新町小学校	6	3	92
72	7/4(金)	佐川町	尾川小学校	6	1	13
73	7/7(月)	津野町	精華小学校	6	1	8
74	7/8(火)	四万十市	西土佐小学校	6	1	27
75	7/11(金)	黒潮町	伊与喜小学校	6	1	6
76	7/14(月)	高知市	高須小学校	6	1	127
77	8/2(土)	安芸市	内原野子ども会			25
78	8/25(月)	香美市	片地小学校	5	1	19
合計						2,954

表19 平成26年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	9/6(土)	須崎市	多ノ郷小学校	3	2	54
2	9/30(火)	高知市	一宮東小学校	5	2	76
3	10/10(金)	高知市	長浜小学校	6	3	90
4	10/14(火)	高知市	布師田小学校	6	1	15
5	10/15(水)	土佐市	高岡第二小学校	5・6	3	31
6	10/16(木)	高知市	大津小学校	6	3	105
7	10/17(金)	高知市	鏡中学校	1～3	3	25
8	11/6(木)	安芸市	土居小学校	6	1	25
9	11/18(火)	中土佐町	大野見小学校	5・6	1	16
10	11/25(火)	高知市	布師田小学校	6	1	15
11	11/27(木)	高知市	三里小学校	6	2	47
12	12/11(木)	土佐清水市	中浜小学校	3～6	2	16
13	12/12(金)	宿毛市	平田小学校	6	1	18
14	12/16(火)	四万十町	北ノ川小学校	6	1	18
15	12/19(金)	南国市	久礼田小学校	6	1	15
16	1/9(金)	中土佐町	大野見小学校	5・6	2	16
17	1/20(火)	四万十町	北ノ川小学校	6	1	18
18	1/26(月)	宿毛市	松田川小学校	6	1	5
19	2/19(木)	高知市	神田小学校	6	3	101
合計						706

験も忘れることができないものである。勾玉づくりは、自分の努力が実を結び、古代の人々の思いを共有することができるのではないかと思う。時間に余裕があれば、より充実する活動である。

アンケート集計結果について(児童生徒・教員)

〈児童生徒〉

参加については「楽しかった」99.8%、「楽しくなかった」0.2%、「無回答」0%で、もう一度勉強してみたいかどうかについては「してみたい」99.56%、「したくない」0.44%、「無回答」0%であった。ア

ンケート結果から体験学習が極めて好評であること、この教室を通じて埋蔵文化財に多くの児童生徒が興味・関心を持ったことが窺われる。

〈教員〉

実施については「良かった」100%で、「良くなかった」0%、「無回答」0%であった。アンケートで評価が高かった内容は火起こしと勾玉づくりであった。これまでも児童生徒がいきいきと活動できたという意見や、今後の授業への興味付けにもなり大変よかったなどの意見が寄せられており、着実に成果があがっている。担当職員数や時間的な制約は否めないが、アンケート結果を踏まえ、今後の授業の内容や体験活動をさらに充実させるため、学校現場との連携を密にしていきたい。

学校側の受け入れ態勢について

前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から電話とファックスで内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する学校には、なるべく遺跡の学習や展示解説を組み込んでもらい学習効果が高められるよう努めた。当日の学校の対応については、要請していた機器類や道具等が概ね揃っており、円滑に運営することができた。担当教員の方にはよく協力をしていただき、スムーズに開催できた。

道具類について

火起こし器は、マイギリ式とキリモミ式を利用している。マイギリ式は破損が多く、毎回点検や修理をしているが、高価なため安価でより良い道具を調達していくことが課題である。マイギリの先端は、センターで栽培しているウツギを加工して火起こしに利用している。檜より容易に火種ができるので重宝している。一方、キリモミ式には竹を利用しているが、火種ができるまでに困難を要する。火種を落とすものとしては脱脂綿を利用している。火きり板は業者から購入したものを利用している。現在檜丸棒の口径14ミリの販売がなく、今後どのような道具を加工、制作していくのか検討中である。替芯も同様で在庫もあまりないので早急な手だてが必要である。

担当職員について

2名の担当職員を中心に運営したが、児童生徒の多い学校では他の職員の協力を得て対応した。お互いに連携をとりながら、授業や展示解説等に精力的に臨んだ。今年度は3名のボランティアの方々に協力していただいた。特に勾玉づくりの児童の支援をしていただき、助けられた。今後も、ボランティアの方々の協力があれば効果的な活動ができる。

出前考古学教室は今年で17年目を迎え、高知県の西から東へと97校の学校に出向き開催することができた。参加数も年々増え、より多くの児童生徒と触れ合う事ができ、この事業に対する期待も大きくなっている。また、児童生徒や教職員だけでなく、学年行事やPTA活動などを通じて保護者にも考古学教室の普及啓発ができ、埋蔵文化財への関心をもってもらえれば大変喜ばしいことである。高知は弥生時代から多くの集落があり、各地に遺跡が残っている。高知に遺跡があることを知らない人も多く、このような話を聞くと地域の歴史にロマンを感じるのではないだろうか。少しでも多くの人々に遺跡を知っていただき、近隣の地域の遺跡や歴史に興味をもつことができれば、地域の良さを見直すことができる。私たちの生活には連綿たる古代人の知恵が生きている。その知恵を現代に生かす努力をするとともに、埋蔵文化財を通じて出前考古学教室を意義あるものにしていきたい。

2. 指定管理事業

(5) 研修事業

職員の資質向上及び最新の情報を得るため職員専門研修(表22)を行うとともに独立法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行う埋蔵文化財担当者研修に1名(表20)、文化庁主催の埋蔵文化財担当職員等講習会に1名(表20)が参加し、また財団自主企画研修として2名(表21)が研修を行った。

職員専門研修(表22)は、本年度から年1回の開催とし、九州国立博物館の今津節生氏を招聘して実施した。また、当センターの職員以外にも市町村教育委員会に案内し、11月20日は4名(県教育委員会1名、香南市3名)、11月21日は3名(香南市)の参加があった。



写真14 職員専門研修

演題は、「発掘調査に役立つ文化財科学」で、研修は、脆弱遺物の発見から取り上げるまでの保管方法や脆弱遺物の取り上げとその後の保管方法についての講義を受けた後、野外で医療用ギプスを使用した遺物の取り上げ実習を行った。また、有機遺物の情報を見逃さないように、藤ノ木古墳の繊維が語る埋葬方法や大和古墳群の発掘と科学調査の事例を説明していただいた。

さらに発掘調査に活かす最新技術の内容として、現在九州国立博物館で文化財用大型X線CTスキャナーを使用した遺物の調査が実施されており、CT調査を行った最新の事例紹介をしていただいた。2日目は文化財防災学の進めとして、文化財科学の領域を統合して防災の研究を推進するとともに、新たに文化財防災という研究領域を設定することを目指しての講義内容であった。約2000年前の地震痕跡と津波痕跡を同時に発見した仙台市の荒井広瀬遺跡等の紹介があり、今後の災害考古学を進めるための調査方法などの講義であった。

埋蔵文化財担当者研修

本年度は奈良文化財研究所主催の埋蔵文化財専門研修「遺跡情報記録調査過程」に1名が参加し、専門的知識の向上を図った。また、文化庁主催の研修に1名を派遣した。

表20 平成26年度埋蔵文化財担当者研修参加者

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	遺跡情報記録基礎課程	奈良文化財研究所	平成26年12月16～19日	坂本 裕一
2	平成26年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	岡山県岡山市	平成27年2月4～6日	久家 隆芳

表21 平成26年度職員自主企画研修

No.	研修名	研修先	研修期間	研修者
1	織豊期城郭から近世城郭にみられる石垣と石切場の調査	愛知県蒲郡市 他	平成26年9月11～15日	吉成 承三
2	より充実した施設の有効活用に結びつく広報普及活動の探求～先進施設の実践に学ぶ	栃木県下野市 他	平成26年9月18～21日	茂松 清志

表22 平成26年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	発掘調査に役立つ文化財科学	平成26年11月20・21日	今津 節生	九州国立博物館 博物館科学課長

表23 平成26年度講師等派遣依頼一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
5月1・2日	坂本 憲昭 茂松 清志	高知県立歴史民俗資料館	高知市介良小学校第6学年, 高知市立朝倉第二小学校第6学年の施設見学・体験学習(勾玉づくり)講師	高知県立歴史民俗資料館
6月5日	茂松 清志	南国市立大篠小学校	第3学年総合的な学習の時間「埋蔵文化財センターについてもっとくわしく知ろう」講師	南国市立大篠小学校
6月13日	吉成 承三	土佐市史談会	「土佐市史談会十講座-土佐の歴史事業」講師	高知県立文学館 大ホール
6月24日	茂松 清志	高知大学教育学部	「初等社会科指導法A」講師	高知大学教育学部
7月9日	茂松 清志	南国市立大篠小学校	第3学年総合的な学習の時間 講師	南国市立大篠小学校
7月18日	坂本 裕一	南国市教育委員会生涯学習課	発掘調査から窺える歴史 講師	南国市久礼田公民館
8月5日	茂松 清志	香南市教育委員会	「授業で扱うことのできる教材及び地域の文化財について」講師	香南市立夜須中学校
11月4日	松田 直則	高知城友の会	高知城に関する勉強会 「高知城の石垣調査について」講師	高知城追手門周辺
12月4日	出原 恵三	高知県東部文化財保護連絡協議会	東部文化財連絡協議会研修会 講師	香美市立 健康福祉センター香北
2月8日	徳平 涼子	徳島県立埋蔵文化財センター	近世に築かれた城や城下町について高知県の調査状況 講師	徳島県立 埋蔵文化財センター
2月13日	吉成 承三	高知城友の会	「高知城の石垣の石はどこから運ばれてきたのか石切丁場解明に向けて」講師	高知市役所鷹匠庁舎
2月22日	出原 恵三 池澤 俊幸	香南市教育委員会	「香南の基層を探る」-香南市遺跡発掘物語-講師	香我美市民館

表24 平成26年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	平成26年度第1回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成26年4月23・24日	坂本憲昭・坂本裕一
2	第35回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(盛岡市)	平成26年6月19・20日	松田直則
3	平成26年度第2回「続・発掘へんろ」高知会場展示・実行委員会	平成26年6月26・27日	坂本憲昭・坂本裕一
4	平成26年度第3回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成26年9月11日	坂本憲昭・坂本裕一
5	平成26年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(霧島市)	平成26年10月2・3日	松田直則・吉成承三
6	平成26年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(奈良市)	平成26年11月27・28日	森田尚宏・下村裕
7	平成26年度第4回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成27年1月7日	坂本憲昭・坂本裕一
8	平成26年度第5回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成27年3月18日	坂本憲昭・坂本裕一

2. 指定管理事業

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者などの依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は12件の派遣を行った。

(7) 遺物の再整理事業等

埋蔵文化財の有効活用を目的に、報告書に掲載された出土遺物の再整理を行った。11月から3月までに田村遺跡群の遺物の122点の接合・補填を行った。

(8) その他

① 共催事業

四万十市教育委員会との共催で行った移動展、香南市との共催のミニ移動展の他、多摩美術大学美術館主催の「四国霊場開創1200年記念 祈りの道へー四国遍路と土佐のほとけー」展(11月22日～1月18日)に共催し、県内の出土文化財31点を出展した。また親子考古学教室も共催や後援を各教育委員会から得て行った。また、高知県立歴史民俗資料館との協同事業として体験学習の指導を行った。

② 各種イベントへの参加・協力

本年度は、高知県文化財団が主催し参加したイオンモールでのワークショップ以外にも当センター主催以外のイベントとし兵庫県立考古博物館主催の「全国古代体験フェスティバル」、安芸広域市町村圏事務局主催の「高知東海岸ハピもぐフェスタ in 高知駅前」に参加した。また本年度作製した着ぐるみ「文蔵くん・まいちゃん」が高知県立坂本龍馬記念館の「レッツゴーハンドインハンド2014」、こうちまんがフェスティバルに参加した。ワークショップ形式のイオンモールでは銅鏡づくり、3D土器パズル、展示、クイズラリー、古代衣装体験、着ぐるみと触れ合い、DVD鑑賞など多くの活動を行い好評で213人の参加があった。また「全国古代体験フェスティバル」では各地の古代体験とともに銅鏡づくりを行い75人の参加があり、「高知東海岸ハピもぐフェスタ in 高知駅前」では勾玉づくりを行い29人の参加があった。館外のイベントについてはアンケートなどでは、初めて参加した人がほとんどで、当センターを知ってもらうきっかけとなっていると考えられ、積極的に活用することを検討する必要がある。



写真17 銅鏡づくり



写真15 共催事業ポスター



写真16 3D土器パズル

IV 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令24高文財第698号

公益財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成24年12月27日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成25年4月1日から平成30年3月31日まで

高知県埋蔵文化財センター年報

第24号

2014年度

発行日 平成27年11月6日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 川北印刷株式会社

